

総務常任委員会のテーブル1における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・震災時、民生委員として町会在住の高齢者等の確認をしようとしたが防災士でもあったため避難所運営を優先し、確認を他の町会メンバーにお願いした。その後も避難所と住民の安否確認のため行ったり来たりした。 ・避難所マニュアルもあるが、校下と市の連絡共有に課題がある。 ・分かりやすく記入しやすい内容のテンプレートを作れば、情報の集約もしやすくなるのでは。
2	・自分が住んでいる地域には9,000人の住民がいるが、学校や公民館に避難できるのか、不安が残る。 ・防災士の役回りは、はっきりしていないと感じる。公（パブリック）の役回りを明確にしないと、防災士も対応できない。
3	・避難生活について、段ボールベッドが設置されるなど、向上していると思うが、1～2ヶ月も避難生活が続くと、いろいろ問題が生じる。 ・もちろん支援には感謝するが、例えば、同じ弁当が続くと飽きてしまう。その状況で、弁当ではなく食事を選んでもらう方式に切り替え、避難民に大変感謝されたとの話を聞いた。避難生活にも楽しみが必要である。
4	・避難所解錠のための、キーデジタルボックス改善はよいことである。 ・自分は住宅密集地に居住しているが、仮に地震が起きた際、避難ルートに課題が残る。全ての道路の拡幅が無理とは承知しているが、せめて交差点の隅切りの拡張等、ルート確保ができないものかと考える。
5	・自助として防災リュックを準備しており、発災直後には避難所に行かないことを家族に伝えている。 ・校下で避難所運営ゲームを体験した際、避難所立ち上げに時間がかかり、多数の避難者が集まり混乱が生じることから、家にいられるだけいて、必要が生じれば避難所に行けばよい ・避難所運営を行う人も避難者であり、負担を減らす観点からも、避難所に行けば何とかするとの考えを持つ人を減らす工夫が必要である。

総務常任委員会のテーブル2における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・避難所における道具や部屋の位置、使用許可についての情報が少ない。 ・被災時は防災リーダーが必ず来られるわけではないので、不在でも対応できるよう、避難所開設キットを日頃の訓練でも活用すべき。
2	・備蓄品の種類と量を住民に知らせてほしい。電気が通ると使える簡易トイレなども必要。 ・教室と体育館の移動はつらいので、体育館でも過ごせるよう、早急な空調の設置が必要。 ・自治体レベルで避難所運営ゲームに取り組んでいるところがあるので、金沢市でも取り組んでほしい。
3	・2階が避難スペース、1階がトイレになっている避難所は高齢者には不便。 ・トイレは男女比1対1で設置されるケースが多いが、混雑に備えてあらかじめ女性トイレを多く設置したり、臨機応変に切り替えられるとよいのではないか。 ・避難所に若い世代が来てくれると、やる気もあり行動してくれるので心強い。
4	・家具の固定や不要な家財の事前廃棄は減災にもつながる。公助として死なない家づくりの推進に踏み込んだ補助を導入すべき。 ・自助を促すための市民の意識醸成には、危機管理課以外の課の取組も必要（日頃の食事や運動による、被災時でも動ける身体づくりなど）。 ・避難所のトイレは女性が狙われやすい。道中が真っ暗なことや子どもを置いてトイレに行けないことなどから、個数だけではなく行きやすくする整備が必要。
5	・36時間分の食糧・衛生用品の備蓄はできているか、また、その備蓄場所について、住民に周知されていることが必要。 ・水洗トイレは混雑するので、くみ取便所が公民館に1台あってもよいのではないか。 ・自助を促すためには、自分のことは自分でやるとの意識醸成が重要。被災者はお客様気分ではいけない。
6	・真ん中に手すりがあるベンチでは、体調不良でも横になることができない。平時から休みやすいまちづくりが必要。 ・防災用生理用品は使用期限が短い、ローリングストック方式にしてはどうか。 ・市内外の人が公共トイレの場所を平時から確認できる「おでかけトイレマップ」のようなものがあれば、非常時にも活用できるのではないか。

経済環境常任委員会のテーブル1における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・犀川の堤防に関して、ツーリズムの発想で上流に向かって階段がつくられているようだが、その設計ではだめで洪水時は片町まで水が溢れる可能性があり、防災と逆行したつくりになっている。浅野川水害の経験を踏まえるべきであり、2級河川は県の所管かもしれないが、川下に向かって階段をつくるべきである。
2	・耐震工事における耐震基準の評点を1.0以上にしなければ補助の対象にならない。評点が1.0以下の場合でも、例えば耐震性が向上する屋根の軽量化などの際にも補助の対象となるような工夫をしてもらえよう、県などにも働きかけてほしい。 ・震度5以上で避難所が自動解錠され、避難者が室内に入るのは少し危険ではないか。建物の倒壊や損傷、安全性を調べたり、トイレの水などが流れるのかなどの確認をして、避難者が安心して避難所に来ることができるようにすることも大事なことはないか。
3	・5年前に防災士の登録をしたが、具体的な活動ができていないため、何から始めたらよいか検討したいため、他の校下の活動状況を教えてほしい。 ・自助だけでは備蓄などにも限界があるため、共助が大事である。金沢市には災害時等協力事業所制度があるが、こうした制度をもっと推進できるよう周知方法にも工夫してほしい。
4	・結ネットが市内でどれだけ普及しているのか。市側の安否確認はもとより、市民側が提供してほしい情報を取得できることが必要である。そのための結ネットの普及を推進してほしい。 ・外国人観光客や大型客船の乗客などが被災した際に、情報発信が有効に機能するのか。また避難所等への誘導などどのような対応ができるのか。外国人向けの避難所マニュアルなどをしっかりと整えるべきではないか。
5	・備蓄が少ないため、特に高齢者対策のための備蓄がもっとあればよい。 ・市は、防災訓練を毎年校下を決め、ぐるぐる回して行っているが、校下ごとに強制的にしっかりとやっていかなければならないと思う。 ・防災士の役割について、何をしてもよいかわからないという話をよく聞くが、例えば、避難所運営ゲーム（HUG）などを実践してもらおうとよいのでは。 ・子どもに対して、学校で段ボールベッドや段ボールトイレの作り方などの体験をさせてはどうか。
6	・自分の住む地区は森本富樫断層帯の近くに住んでいる。高齢者世帯が多く、独居老人を誰が避難させることができるのか懸念している。町会などでの連絡体制をどのように構築し高齢避難者をサポートすることができるか模索しており、これからも考えていきたい。

経済環境常任委員会のテーブル2における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・ 学生で防災士の資格を取っても市町には所属しないため、学生は資格を取って終わりの人がたくさんいる。ただ、学生ならではの視点や活動できる部分があるはずなので、学生も巻き込んだ防災の活動を行ってほしい。 ・ 学生防災士が期待されたり、求められることにより、活動する人も増えるのではないかな。 ・ 防災士のスキルアップ研修や学生同士での交流もしていきたい。
2	・ 高齢者の災害時の避難について、小学校や公民館等の避難所を設定しているが、自宅から遠い場所には避難することができないため、もう少し避難所を点在させて設定するべきではないかな。
3	・ 豪雪時は、業者不足となり呼んでもすぐに来てもらえないということがあるため、市の方で町会の方に1台しかない除雪機を複数台配備したり、除雪機オペレーターの育成、除雪機を安全安心に使用してもらうためのマニュアル作りなど柔軟な補助制度を導入してほしい。
4	・ 耐震改修工事には250万円の補助が出るが、審査等がややこしいため、高齢者が申請しづらい。そのため、富山県にある事例のように地域にシェルターを整備してはどうか。 ・ 個別避難計画の整備は、町会の方ではなかなか進まない可能性があるため、秀吉の五人組制度のような小団体を形成し、向こう三軒両隣の良いと思う。 ・ 大桑防災拠点広場にある耐震性貯水槽のような設備の整備や消火器の整備を進めてほしい。 ・ 災害用資機材を誰が何を用意するのか分からないので、そこを明確にしてほしい。
5	・ 金沢市は地震がなく安全で平和だと思われていたが、能登半島地震以後は防災に対して協力的な人が増えてきたが、まだまだ他人事な部分がある。 ・ 拠点避難所である小学校には危機管理課から様々なものが備蓄されているが、指定避難所である公民館にはまだ備えがされていない。元日には公民館に避難したい人々から電話があったが、公民館自身が避難所を開設しなくてはならないことを把握していなかった。避難所開設条件の周知を徹底してほしい。
6	・ 自助と共助が特に大事である。 ・ 地震では公助が大事だと思っており、スマートにお金をかけて復旧・復興していくべきである。

建設企業常任委員会のテーブル1における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・能登半島地震の発生前に避難所の備蓄を見たがほとんどなかった。何回もお願いしてやっと整備してもらったが、行動が遅いのではないかと。防災に対する危機意識が少なすぎるのではないかと。誰が指揮を取って誰がOKを出しているのか。 ・行政の役目として、どこに頼めば何が支給されるのか、連絡網のようなものを整備しているようだが、活用できていないのではないかと。
2	・市で指定されている避難場所が川の近くにあるので、水がついたら使用できない。その場合、地区内に避難拠点がなくなってしまうので何らかの対応をしてほしい。 ・地区の避難訓練の際には、避難所にはそんなに多くの物資はない。避難所に期待しすぎないようなある程度の物資は自分で持ってくるように伝えている。
3	・0.5次避難所となる集会場の耐震補助について、能登半島地震で外壁にひびが入った。修繕の補助はあるが、工事するにも修繕費以外に調査、設計にもそれなりの費用がかかるので、それも含めた補助にしてほしい。また、耐震改修に対しては補助がないので、耐震改修も補助メニューに加えてほしい。 ・町会で避難計画を作る計画の段階で小中学校に教室も避難場所にできないかと相談したところ難色を示された。体育館だけではとても入りきらないので教室も使えるようにしてほしい。
4	・防災士の認知度が向上すれば目指す人も増えると思うが、市として何か取り組めないか。 ・避難所担当の市職員が地区外に住んでいることがある。避難所の鍵を持っている職員が来ないと避難所が開けない。スペアキーを作るなどの対策が取れないか。 ・発災直後の情報の伝わり方が課題である。市職員が鍵を持って来るのにそれを知らずに窓ガラスを割って避難所に入った人がいた。情報を待って動くことができないという場合があることも考慮してほしい。
5	・避難に際して、家の近くの避難所に避難してはダメなのか。なぜ地区で決められたところではないとダメなのか。地区で決められた避難所だけでは地区人口の全体が避難できない。 ・避難所のあるべき姿はスフィア基準に沿ったものであるべきである。台湾でできたことがなぜ日本でできないのか。
6	・能登半島地震で珠洲市や輪島市の被害が大きかった理由の一つに耐震化率の低さがある。 ・金沢市は観光に力を入れているが、それでよいのか。

建設企業常任委員会のテーブル2における参加者の主な意見等

番号	内容
1	・災害には様々なパターンがあるため、災害発生前から知っておくことが重要。 ・近所で体の悪い人などを助ける、互助が大切であり、普段から地域の中で声を掛け合うなど、関係性づくりがあるとよい。 ・避難のあり方を見直すことが大切であり、何かあったらすぐ避難所に行くのではなく、自身の地区が避難が必要なのかを判断すべき。
2	・災害予知がどこまでできているかが重要。 ・地域の防災訓練について、障害のある方にも参加してほしいと感じている。 ・大規模災害時は現状の指定避難所では数が足りないため、耐震がしっかりしている民間施設（ホテルなど）を活用するなど、発想の転換が必要。 ・東日本大震災のある避難所では、リーダーの提案によって、避難者が持ち寄った物資をみんなで分け合うことで、雰囲気の良い避難所を作れたと聞いたため、こうした避難所におけるリーダーの育成が必要。
3	・福祉避難所について、金沢市は10か所を設けているが、うち2か所を障害のある方への特設施設にするなどして、障害のある方が安心した避難生活を送れるようにすべき。 ・能登半島地震クラスの地震が金沢で起きた場合、避難所1か所に数千人が押し寄せる可能性があるため、避難所ごとのキャパシティを把握し、防災備蓄品などの計画を持つべき。
4	・能登半島地震の際に避難所運営をしたが、避難者の受付や物資の配布がうまくいかず、混乱を招いた経験があるため、平時から準備しておくことの大切さを感じた。
5	・私の地区では、子どもが楽しめる防災訓練をコンセプトにした「防災運動会」を実施することで、地域の防災意識を高めている。 ・避難所運営は平時から準備しておくことや、避難する住民へ避難時の行動や持参物（避難袋）を周知しておくことが非常に重要。 ・防災士は防災テントを設営できるようにするべき。